

平成 28 年度 記者懇談会（第 10 回）の記録

日 時 平成 28 年 1 月 25 日（月）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 5 人

同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、建設部長、健康福祉部長

次 第 1 雪対策の進捗状況について

2 その他について

1 雪対策の進捗状況について

説明内容

（市長）

この冬の雪対策の進捗状況ということでお話をさせていただきたいと思います。

市は、今年度も引き続き、総合的な雪対策といたしまして、全庁的な本部体制をとりまして、市道の除排雪の効率化とバス路線を中心とした幹線道路の迅速な確保、各種情報の提供、空き家対応、高齢者世帯等の弱者支援などに取り組んでいるところでございます。資料に沿ってご説明をさせていただきたいと思います。

はじめに、今シーズンの雪の状況でございますが、先週は、非常に強く大きな低気圧が北海道の太平洋側を通過したことに伴いまして、特に道東オホーツク方面では暴風雪や大雪による被害に見舞われたところでもございますが、当市では、幸いなことに影響を受けずにすんだということで、ひとまず安心をしたところでもございました。

昨年 11 月から 12 月中旬までは、少雪でありましたが、年末から 1 月 17 日まで、ほぼ毎日、雪が降る状況が続いておりました。現在、積雪は、ほぼ平年並みという経過でございます。

1 月 25 日現在、積雪の深さは 70 センチ、累計降雪量は 335 センチというふうになっております。

次に、運搬排雪の実施状況でございます。

年末から 1 月上旬にかけての降雪によりまして積雪深が平年を超え、バス路線あるいは幹線道路も狭い状態が続きましたので、順次、排雪を行い、その後は引き続き、小・中学校の始業式に合わせて、計画的に学校周辺の通学路を中心に実施してまいりました。

先週は、雪も落ち着きましたので、この時期といたしましては、市内の道路は、概ね良好な状態が確保されているのではないかとこのように思っております。

1 月 21 日現在でございますが、80 路線、延長にして延べ 71 キロメートルの排雪を終えておりました。計画していた排雪路線は、ほぼ一通り排雪を完了している状況でございます。

なお、先週に引き続きまして、利根別川消流雪事業を実施しており、今日も市内中心部の排雪を行っております。

次に、市内に 3 か所開設しております市民雪堆積場の状況でございます。

現在、栗沢町雪堆積場の搬入量が受入可能量の 35%を超えておりますが、日の出町そして岡山町の雪堆積場は、今のところ十分余裕がある状況でございます。

また、屋根の雪下ろしが終わっていない家屋も多く見受けられますので、例年どおり、これから搬入される雪の量が増えていくものと予想しているところでもございます。

次に苦情・要望等の状況でございます。

この冬で、苦情で最も多いのは、例年同じでございますが、置き雪に関するもので、左右の不均衡あるいは置き雪の量が多い、などといったものでございます。また、例年に比べまして、除雪が入っていないという苦情も多くなっておりますが、これは、除雪作業後の降雪、特に朝方から降り始めるケースが続いたことによるものとも思っております。

一方で道路が狭い、拡幅してほしいという苦情・要望が少なくなっており、いわゆるドカ雪と言われる 1 日に 30 センチを超えるような降雪が、これまでに無かったためではないかと考えております。

次に空き家の対応状況になります。

市民連携室が把握している管理不全な空き家 181 件、これは 12 月末現在ですが、そのうち、落雪などのおそれがある 104 件について、1 月 12 日と 13 日の 2 日間に渡りパトロールを実施いたしました。

その結果でございますが、落雪の危険が高いと判断をし、雪庇切りなどの緊急的な安全措置を講じた 6 件、そのほか、屋根の形状や積雪状況、道路までの距離などを勘案し、22 件に対して、現地の写真を添付して指導書を送付いたしました。

このほかパトロールにより、解体済みとなっていたものが 1 件、住家として使用され、空き家でなくなっていたものが 2 件確認をされたところでございます。

残り 73 件につきましては、屋根への積雪が少ないことなどから経過観察としているところであります。

今後も引き続き、指導済み物件の再確認をはじめ、町会からのご指摘、あるいは市民からの通報等の対応と併せまして、降雪状況に応じて適宜パトロールを実施してまいりたいと考えております。

次に高齢者世帯の雪下ろし助成の登録状況でございます。

登録者数はこれまでのところ 158 世帯で、実際に雪下ろしを実施した世帯は 17 世帯となっております。しかしながら、この冬はドカ雪の日がないものの 10 センチ前後の降雪が続いておりまして、気温も低く推移してきていることから、この数日は暖気がありますが、屋根にはかなりの雪が積もっているものと思われまますので、今後、雪下ろしを実施する世帯が増えていくのではないかと考えております。

なお、雪下ろしを実施する登録事業者は、前年と比べて 1 社多い 22 社となったところでございます。

次に弱者等の調査支援活動の対象者の状況でございます。

当市では、大雪などの際に、いつでも対応できるよう、昨年 12 月 23 日から支援活動の準備を整えており、この弱者調査と併せ、市民からの通報により弱者支援を行う

緊急支援班も1日2班体制を敷きまして、いつでも出動できるといった状況になっております。

この冬の出動実績でございますが、先ほどお話しさせていただいたとおり、ここまでドカ雪がなく積雪も平年並みとなっていることから、一斉調査と支援はこれまでのところはまだ、実施しておりません。緊急支援につきましては、1月14日に発生をいたしました日高沖地震の際、落雪により玄関が開かなくなったとの通報により出動し支援をした1件のみとなっております。

次に人的被害の状況と雪下ろし装備の貸し出し状況になります。

この冬は、すでに5件の事故が発生しておりまして、重傷が4件、軽傷1件で、いずれも雪下ろし中の転落事故となっております。

市では、屋根の雪下ろしの際には、複数人数で作業を行うことや安全装備を装着し、安全確保に努めていただくよう呼びかけを行っております。安全装備をお持ちでない方に対しては、安全帯・ヘルメット・命綱のいわゆる雪下ろし3点セットの貸し出しを行っておりますので、ぜひこれからご利用いただくようお願いしたいと思います。

なお、この冬、これまでの装備の貸し出しは、7件で11セットという状況でございます。

以上でございますが、引き続き様々な観点から、安全確保のための啓発を行ってまいります。

質疑応答

(北海道新聞)

資料2番目と3番目の運搬排雪状況と雪堆積場運搬状況と示していただきましたが、昨年度との比較と、7番目の障がい福祉G抽出分とはどういう意味かを教えてください。

(市長)

昨年は確か2日3日で77センチメートルの降雪があったので、直後から市内一斉にフル稼働状態に入ったのでかなり前倒しになっていると思います。堆積場の搬入量もこの時期としては多かったですし、この時期で栗沢が後何日かで閉めて別の場所で確保というような状況で昨年度の記者懇談会でお話した記憶があります。7番の障がい福祉G抽出分ですが、これは75歳未満の身障などの世帯のことです。

(読売新聞)

8番の人的被害状況を前年同比で教えていただきたいのですが。

(市長)

詳細については、後で資料をお渡ししたいと思います。

(北海道新聞)

空き家のパトロールの今後の予定が決まっていれば教えていただきたいのですが。

(市長)

予定については、今後の降雪状況によると思います。30センチ以上のドカ雪の状況となった場合には即座に入ることになると思いますが、それ以外はその時の状況での判断になります。ただ経過観察のところについては適宜見回りをしていると思います。

(プレス空知)

2 番の運搬排雪状況での予算の関係で、昨年や一昨年は1月の状況で2月、3月の降雪量を見込んで実際に補正していると思いますが、今年の状況としてはいかがでしょうか。

(市長)

今のところ、ドカ雪の始末という状況とは違う中での排雪作業が順調に進んだので、今すぐ補正をしなければならないという状況とはちょっと違うかなと思っています。ただ今後の降雪状況と降りかたの中身によりますので必要なことについては必要な手立てを速やかに行うこととしたいなと思っています。

(HBC)

3 番の市民堆積場とは別に業者の搬入する堆積場はどういった状況ですか。

(建設部長)

15 か所くらいありますが、今年は少雪なので十分余力があり確保されているという状況です。

2 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(北海道新聞)

3 月末で合併 10 年の節目を迎えますが、これから市として式典のような行事は考えていますか。

(市長)

予定はありません。

(北海道新聞)

総括的なものを作る予定はありますか。

(市長)

今後の検討になるかと思っています。合併十年史という議論は実はあったのですが、十年史云々ということよりは合併をした成果をきちんと出すように優先しましょうということと取り進めています。大きな懸案なんだろうなということで、各自治体の市史みたいなものが、かれこれ 30 年以上発刊されていないという状況もあるので、そのあたりはすぐということではないですけども、検討していかなければならない課題だなという認識はしております。

(北海道新聞)

市長として合併特例債の今後の活用をどのように考えているのでしょうか。

(市長)

フル活用としたときにどのような影響を与えるのかという観点で考えているので、具体的にこれと絞り込んでやっているものではないです。確か 50 億円ぐらいは合併特例債が活用できるというようなイメージです。

(プレス空知)

合併に伴っての新庁舎はこのタイミングであらためてつくりましょうかといった場合に合併特例債の対象になり得るのでしょうか。

(市長)

この庁舎を建て替えるということになれば、合併特例債の対象には、なり得る事業かなとは思ってはいますけれども難しいところですね。後年度の負担が発生するのは間違いないことですし。

(プレス空知)

去年の2月に耐震の数値が悪いということで、常任委員会で報告されていて、それから1年経過してその後どうなったのかということがわからないところでもあったので。

(市長)

いろいろと幅広に考えなければならぬと思うんですけども、学校の耐震化については目途が着いたんですけども、まだ残っているところもあるので、そちらの方を先にしっかり考えなければならぬという課題もあるので難しいところですね。

(プレス空知)

総合戦略はCFTを2つ作って、若い人の柔軟な発想で大胆な施策を提案してもらえればというところが期待されていたと思いますが、実際に総合戦略の中で若者らしさを探すのは難しかったのですが、実はこういったところがそうなんだよというものがあれば教えてください。

(市長)

予算の議論も並行してやっているのですけれども、予算の中でCFTの提案事業という区分けの仕方もしております、事業の中身をCFTの提案に沿って構成していくという事業がいくつかあります。岩見沢市の総合戦略というのは少し踏み込んだ形の総合戦略なのかなと自分自身は思っているのですけれども、予算の中でCFTの提案をベースにして現実的な評価・検討を加えて事務事業に打ち出すという考え方で進めているので、新年度予算の中でいくつかお示しできるのではないかと気がします。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)